

### 抄

10年ほど前「自分たちのカネと汗で知り合ったつくったオラが学校」だ。垣見一雅さん、学校を訪れどみると、登校拒否はゼロ。校舎に落書きはゼロ。生徒は目

回って村の教育・医療・産業の支援をしている。厳しく回収した貸付金

何でも頼むとOKと引きは、生徒が親の病氣や死を受けてくれるので、現地で困窮した時に使われる。OKバジは見

ではOKバジ(ネパール語でおじいさんの意味)として知られている。古希を越えた誠実、温厚な彼のOKは要注意。施しの優しきとはなく、自立を導く厳しきがあるから。彼が村の学校を

建てるときは、村人が3分の1の費用を供出し、山の下からレンガやセメントを運んで校舎建設に労働奉仕することだ。Kajiponと彼は初めて3分の1を資金援助し、残りを貸し付ける。

「どうしてできた学校は

じいさん

安田 隆二

舞金を出すのではなく、ヤキを10匹買ってあげる。ヤキを世話し子ヤキを増やしていけば、ギリギリ自活できるからだ。学校では自立の誇りを失わない遺児を目にしている。

私もこれまで3回、ネパールに彼を訪ねてみる。垣見さんの生きざまは、優しい社会保障にあふれた日本社会での企業経営を研究する私に、新鮮なショックを与えてくれる。(やすだ・りゅう)

じいさん

安田 隆二

舞金を出すのではなく、ヤキを10匹買ってあげる。ヤキを世話し子ヤキを増やしていけば、ギリギリ自活できるからだ。学校では自立の誇りを失わない遺児を目にしている。